Ⅳ-109　地方生活圏の構造特性に関する実証的研究

鳥取大学工学部　正員　岡田憲夫
福岡県庁　正員　○魚住忠可

1. はじめに ―― 「地方の時代の到来」という言葉が盛んに使われ，「地方生活圏」・「地方定住圏」整備構想が政府の地域整備問題の重要課題として取りあげられている。しかし，この種の整備構想を実際の計画目標としてとりあげていく際には，「地方生活圏」・「地方定住圏」の現況をどのようにとらえ，これを分析・記述していくのか，また将来のあり方とそれを取り巻く種々の制約をどのような形で克服するのかといった予測・代替案の設計ならびにその評価のための科学的・計画論的概念整理を行なうことが緊要であると考えられる。このような観点から筆者らは，この概念構成（図-1，図-2参照）を基底にし，特に鳥取県を対象として地方生活圏の構造に関する一連のシステム分析を行ない，多角的な計画情報提示を行なっている。[1)2)] 本研究はその一環として，地方生活圏をミクロレベル（局所的かつ小時間単位の視点）からとらえた場合の構造特性について考察する。その際，対象域としては鳥取県東部圏域をとりあげ，地域活動のにない手である「人間」の行動パターンの時間推移性に着目した分析結果について述べる。なお，現在の行動パターンならびに，過去と現在の行動パターンの連関性については，すでに発表しているので，[1)] 今回は，主として現在と将来の行動パターンの連関性について言及する。

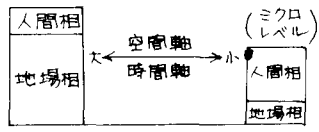

図-2

人間相	価値・意識相
	行動相（境界相）
地場相	活動相（境界相）
	地場体
	地場作用

図-1

2. アンケート調査 ―― 当該地域の生活圏を地域住民の行動パターンとしてとらえるための基礎的情報を得ることを目的としてアンケート調査を実施した。実施期間は昭和56年7月から9月にかけてである。その際，「行動を時数づける項目として「買い物」・「通勤」・「通院」・「レクリエーション・文化活動」を取りあげるとともに，その行き先を調べた。なおアンケートではそのほかに回答者の年令，職業，家計費ならびに「将来の買い物先パターン」についても回答を得ている。アンケート対象域は図-3に示す＊印の9町村である。

図-3

3. 行動パターンの時間的変化（過去と現在の行動パターンの連関性）―― 実は，本アンケートの予備調査として昭和52年度に河原町・佐治村・智頭町の3町村を対象にして全く同一内容のアンケート調査を実施した。その結果，全般的に前回と今回の調査結果には顕著な相違は認められなかった。実は本分析の背後には，「鳥取駅前の再開発整備」が昭和55年度に完成し，そのために対象域の買物圏が変化したのではないかといった予測があったが，現在のところそのインパクトは買物圏にそれほど影響を及ぼしているとは考えられない。また，本アンケートでは，この鳥取駅前再開発整備に関して「以前よりもっとしばしば鳥取駅前にいくようになったか？」を聞いているので，この属性と現在の行動パターンとの間でクロス集計を行ないｚ検定を行なえば，現在の行動パターンが再開発整備の影響をうけているかどうかを知ることができる。概ねどの町村でも，属性間の関係は独立と判定されたので，現在のところ行動パターンはそのインパクトの影響をほとんど受けていないと考えられる。

4. 行動パターンの時間変化（現在と将来の行動パターンの連関性）―― 本アンケートでは現在の買い物先パターン（現在の行動パターンとみなせる）の他に，将来の買い物先パターン（将来の行動パターンとみなせる）についても回答を得ているので，この双方のパターンに着目すれば，現在と将来の行動パターンの連関性を知ることができる。つまり，本アンケートでは各被験者に対し，「将来，もし条件が整えば現在の衣料品・身の回品・日用品・食料品の購入

先を変更したいかどうか?」「もし、変更したいのなら将来どこで購入するのか?」を聞いている。なおこの調査に限っては、郡家町・八東町の2町のみを対象として実施した。概ね両町とも各品目に対し、「将来もいまのままでよい」(現在の購入先でよい)が、将来は「もっと地元で購入する」と答えた被験者が最も多かった。この点に着目し、「各品目(衣料品・身の廻品・日用品・食料品)の将来の購入先パターンが、現在の購入先パターン(概ね各町村とも地元か鳥取市)の影響をうけているかどうか」をχ^2検定により検証した。その結果、両者の属性間の関係は独立であり、各品目の将来の購入先パターンは、各品目の現在の購入先パターンのみからではうまく説明づけられないことがわかった。そこで数量化理論Ⅱ類を用いて、各品目の将来の購入先パターンを外的基準にとった場合に、それぞれの外的基準に属する個体タイプα_iが「現在の買い物先パターン」にどういう反応をしめしているのか、また、外的基準に影響を及ぼす要因(買い物品目)はどういうものなのかを調べた。その計算結果の1例を表-1に示す。なおこの結果は郡家町を例にとった場合であり、外的基準としては「将来の衣料品の購入先パターン」に着目している。これより概ね次のことがいえる。1)将来の衣料品の購入先パターンに及ぼす影響度の大きな要因は、かばん・袋物かさの購入先、菓子の購入先、生鮮食品の購入先の現在パターンなどであり、現在の衣料品の購入先パターンからではうまく説明づけられないことがわかる。2)外的基準に属する個体タイプの特徴は、「将来もいまのままでよい」と答えた被験者の場合α_iは主として負であり、「将来はもっと地元で購入する」と答えた被験者の場合α_iは主として正であった。このことから外的基準の反応パターンと各品目の現在パターンとの関係を知ることができる。図-4は、将来の衣料品の購入先パターンに影響を及ぼすと考えられる要因のうち、生鮮食品の購入先の現在パターンに着目したときに、現在の生鮮食品の購入先、現在の衣料品の購入先、将来の衣料品の購入先パターンを模式図として示したものである。これより現在大概の人が地元で買い求めようとしている生鮮食品を、現在鳥取市で購入している人もできれば将来はもっと地元で済ませるようになりたいと考える傾向が強いのに対し、現在地元で購入している人は、将来もそのパターンを保持しようとする傾向があると推定できる。他の品目を外的基準にとって同様の計算を行なったところ、図-5に示すような要因を抽出することができたが、各品目とも現在の購入先パターンからではうまく説明づけられていないことがわかる。結局、図-6に示すような2つのパターンを浮き彫りにすることができる。パターンAに属する品目は現在主として鳥取指向の強い時計・メガネ・貴金属・くつ類・かばん・袋物かさといった品目であり、パターンBに含まれる品目は現在主として地元指向の強い生鮮食品、電気器具などの品目である。また地元指向の強い食料品の中でも菓子はパターンAであり、生鮮食品はパターンBであることは興味深い。同様のことは、鳥取指向の強い、紳士服(パターンB)、時計・メガネ・貴金属(パターンA)についてもいえる。

表-1

ITEM	CATEGORY SCORE η_{ijk} 購入先は鳥取市	購入先は郡家町	購入先は他町村	ITEM RANGE		
1	0.0071	-0.0023	-0.0604	0.0675	1 呉服・反物	衣料品
2	0.0027	-0.0125	-0.0798	0.0825	2 紳士服	
3	0.0073	-0.0628	0.2228	0.2856	3 婦人服	
4	0	0.0123	-0.0116	0.0238	4 子供服	
5	0.0130	-0.0187	-0.0688	0.0818	5 肌着・下着	
6	-0.0065	0.0214	-0.0934	0.1148	6 帽子	
7	0.0091	-0.0359	-0.1183	0.1275	7 くつ類	身の廻品
8	-0.0095	0.0087	0.0843	0.0938	8 ビジ・ドレス類	
9	-0.0037	0.1097	-0.4812	0.5908	9 かばん・袋物・かさ	
10	0.0068	-0.0249	0.1768	0.2017	10 洋品雑貨	
11	-0.0004	-0.0021	0.0943	0.0964	11 時計・メガネ・貴金属	文化品
12	0.0019	-0.0019	0.0174	0.0194	12 電気器具	
13	0.0063	-0.0712	0.1751	0.2463	13 家具	
14	-0.0189	0.0565	-0.0692	0.1258	14 書籍	
15	-0.0225	0.0159	0.0778	0.1003	15 化粧品	日用品
16	-0.0361	0.0168	0.0605	0.0966	16 医薬品	
17	0.0386	-0.0309	0.0761	0.1071	17 金物・陶器	
18	-0.0242	0.0103	0.0695	0.0936	18 文房具	
19	0.0028	-0.0119	-0.0104	0.0147	19 おもちゃ	
20	0.1486	-0.0135	-0.2432	0.3918	20 生鮮食品	食料品
21	-0.0965	0.0098	0.1027	0.1992	21 加工食品	
22	-0.0916	0.0118	0.3882	0.4798	22 菓子	
23	-0.0002	0.0015		0.0017	23 贈答品	其他

Correlation Ratio = 0.40

現在の生鮮食品の購入先パターン	現在の衣料品の購入先パターン: 鳥取	地元	将来の衣料品の購入先パターン: 鳥取	地元	
鳥取	●	○	◎	○	(地元促進型)
地元	◎	○	◎	○	(現状維持型)

図-4

将来パターン		要因
身の廻品	→	11.12
文化品	→	9.20
日用品	→	11.2
食料品	→	7.11

図-5

	現在パターン		将来パターン
A	鳥取	→	今のまま
	地元	→	もっと地元
B	鳥取	→	もっと地元
	地元	→	今のまま

図-6

5. おわりに ——以上本研究の実施により、行動パターンの時間推移に着目した場合の地方生活圏の特性を具体的に分析できたと考えるが詳細は講演時に言及する。

(参考文献) 1) 岡田・魚住:地方生活圏の構造特性に関する実証的研究—鳥取県東部地域を対象として,第4回土木計画学研究発表会講演集,昭和57年 2) 魚住:地方生活圏の構造特性に関する実証的研究,鳥取大学修士論文,昭和57年